

研修報告書No.6

所 属：東邦大学佐倉医療センター研修医
研修先：本山町立国民健康保険嶺北中央病院
大川村国民健康保険小松診療所
高知市土佐山へき地診療所

高知県は人口当たりの医者の割合が多いにもかかわらず、ほとんどが市内に集中していて地域医療における医師の数は多いとは言えるものではありません。私が研修した嶺北中央病院の常勤医師は外科、整形外科、内科あわせて7人で89床の病院です。ほとんど慢性的な疾患を持つ患者さんが多く、3次救急もあります。私は4月から1か月おもにこの病院で学ばせて頂きました。慣れない紙カルテや、一部電子カルテが導入されており最初は戸惑いましたが、徐々に慣れてきました。地域医療の特徴として高齢化が進んできていることで多くの患者さんが病院へ来られます。特に地方のおばあちゃんは方言を多用するので問診も大変でしたが何度も聞き返し、自分から聞くように心がけることで問診や身体診察はスムーズにできるようになりました。近くに病院がある都会とは違い、週に2回しか医者がこない診療所もあったり、診療所への交通手段は送迎バスが出たりと山の上のほうに住んでいる患者さんもいるので、すぐに医療を受けられる状況にないことがあります。そのため問診を細かく聞くことや、自分の専門にかかわらず幅広い視野で診察することがとても重要になってくると思いました。寝たきりで病院に来ることのできない患者さんには往診も非常に必要なことであると実感しました。緊急手術が必要な患者さんは救急車で市内の病院へ搬送したり、ドクターヘリが出動したりもあるみたいです。

研修内容はとても濃く、訪問診療や往診、学校健診、手術、病棟業務、放射線科研修、デイケア、週一回の抄読会、リハビリセンター、など大学病院では経験することのできない貴重な経験もしました。検査室では都市部と違い、グラム染色は行うが、培養は外の機関に任せるというタイプを取っており、血液検査の項目も全てあるわけではない。それはコストの面が主であり、必要最低限の検査で、その患者さんの病態を把握しなければならないという面では理にかなっている。訪問診療では実際に患者さんを車で迎えに行き、その患者さんと車内で話し、その土地の昔話を聞き、送迎用バスがないと診察を受けに来られない生活環境などを体験しました。往診では看護師さんの運転する車で寝たきりの患者さんの家に直接行き、そこで問診、身体診察、採血、処方を行いました。手術に実際に入って、先生のサポートや、ハンマーやドリルを使った手術において実際に触らせてもらったのは貴重な体験でした。

今回の臨床研修において様々なコメディカルの方々とも話す機会が多く、また週末は多くの観光名所や美味しいものを食べる機会があり、とても有意義な休日も過ごせました。人との出会いは一期一会といいますが、高知県の人々はとても温かく迎えてくれました。また病院長、指導医の先生方、秘書さん、事務の方々には大変お世話になりました。今回

の臨床研修では大学病院では決して味わうことが出来ない貴重な経験を積むことが出来たのではないかと思います。この経験を生かして今後の地域診療や、コミュニケーションなどをより高めていけたらいいと思います。最後にこのような場を提供してくれた高知医療再生機構さんに感謝をしたいと思います。